

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	柿崎光、MARI、青野りえ			教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン	
【科目の目的】									
自分の身体の使い方を知り、安定した声を身につける。特定の声の種類と、その声を使用しているアーティストを把握し、ヴォーカルテクニックの基礎レッスンを通じて学んだ楽曲を発声の観点から分析する。ヴォーカリストとしての基礎力を養うために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を身につける。ソロやバンドに合わせてトレーニングを実施し、様々なオーディションやコンテストに備え、進和方法を学び、実践する。									
【科目の概要】									
サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. 安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る。 B. 声の種類 1 種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する。 C. ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 1 曲を発声の観点から分析できる。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう				レベル 1 要努力			
到達目標 A	安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る	自分の身体の使い方を知る				到達目標Aについてさらなる努力が必要			
到達目標 B	声の種類 1 種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する	声の種類 1 種を把握する				到達目標Bについてさらなる努力が必要			
到達目標 C	ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 1 曲を発声の観点から分析できる	ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 1 曲を歌唱できる				到達目標Cについてさらなる努力が必要			
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	スキルチェック	スキル確認	1 個歌い練習	個別スキル把握ができる	3	
			2 声のチェック	個別課題設定ができる		
			3 課題決定	一人ずつ歌えるように		
2	腹式呼吸習得	呼吸法導入	1 ウォームアップ	腹式呼吸ができるように	3	
			2 腹式呼吸	ハミングができるように		
			3 ハミング習得	リップロール習得		
3	声帯の理解	声帯の知識	1 声帯の構造	声帯の動き理解	3	
			2 チェスト声	「チェストボイス」認識		
			3 ヘッド声認識	「ヘッドボイス」認識		
4	リズム習得1	基本リズム学	1 16ビート習得	メトロノーム使用法習得	3	
			2 メトロノーム	16ビートリズム習得		
			3 リズム認識	リズムトレーニング実践		
5	リズム体感	体でリズム感	1 4ビート体感	4ビートの体感	3	
			2 8ビート体感	8ビートの体感		
			3 16ビート体感	16ビートの体感		
6	チェスト発声	低音部学習	1 声帯の動き	チェストボイス習得	3	
			2 チェスト声習得	声帯の動き習得(1)		
			3 声帯筋肉学習	筋肉の動かし方習得		
7	ヘッド発声	高音部学習	1 ヘッド声習得	ヘッドボイス習得	3	
			2 声帯筋肉学習	声帯の動き習得(2)		
			3 胸腔共鳴	筋肉の動き習得(2)		
8	共鳴位置	共鳴位置学	1 口腔共鳴	共鳴位置の理解	3	
			2 鼻腔共鳴	胸腔での共鳴習得		
			3 母音の意識	口腔での共鳴習得		
9	母音子音法	発音の技術	1 子音の意識	母音・子音の意識	3	
			2 発声技法	発音の違い理解		
			3 音域拡大法(1)	正確な発声練習		
10	音域拡大法1	音域伸長1	1 声のトレーニング	音域拡大の方法習得	3	
			2 音域拡大法(2)	声のトレーニング法習得		
			3 声のトレーニング	トレーニング法理解(1)		
11	音域拡大法2	音域伸長2	1 音程の理解	音域拡大の練習(2)	3	
			2 正しい音程	声のトレーニング法実践		
			3 スケール練習	トレーニング法理解(2)		
12	音程の理解	音感養成	1 1.5オクターブ	音程の理解	3	
			2 各度数の感覚	正しい音程習得		
			3 復習(1)	スケール練習実施		
13	スケール練習	音階の応用	1 前期の内容	1.5オクターブの習得	3	
			2 成果の理解	各度数の間隔感知		
			3 期末試験準備	前期トレーニング復習		
14	トレーニング復習	全内容復習	1 期末試験	成果の確認	3	
			2 成果の確認	期末試験対策		
			3 評価と反省	評価と反省ができる		
15	まとめ	実技試験	1 成果の共有	成果の共有ができる	3	
			2 実技の発表	実技の発表ができる		
			3 フィードバックの理解	フィードバックの理解ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月・早川咲	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、ボイストレーナー		
【科目の目的】									
Major Keyの1度から5度までの音程をコントロールし、ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどの基本的なテクニックを習得する。ヴォーカリストとしての基礎力を養うために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を身につける。ソロやバンドに合わせてトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. Major Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールができる。B. ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて1種類の基礎的なテクニックが習得できる。C. 本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標A	Major Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールが正確にできる	Major Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールがややできる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標B	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて1種類の基礎的なテクニックが習得できる	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて1種類の基礎的なテクニックを説明できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標C	本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある	授業で学んだ技術の安定感がある			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、1 4 回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題曲①解析	曲の目標設定	1 曲解析	課題曲①の解析ができる	3	
			2 目標設定	曲の構造を理解する		
			3 課題曲①学習	明確な目標を設定する		
2	課題曲①呼吸	呼吸法の理解	1 呼吸法学習	正しい呼吸法がわかる	3	
			2 ブレス位置	腹式呼吸を実践できる		
			3 課題曲①学習	ブレス位置を知る		
3	地裏声切替	地裏声学習	1 地声学習	地声の使用方法がわかる	3	
			2 裏声学習	裏声に切り替えられる		
			3 課題曲①学習	声のバランスを感じる		
4	課題曲②リズム	リズム練習	1 リズム学習	リズムの基本が身につく	3	
			2 表拍裏拍	表拍と裏拍を区別できる		
			3 課題曲②学習	課題曲②のリズムを取れる		
5	音域確認	音域の確認	1 音域確認	自身の音域を知る	3	
			2 音域拡張	音域を広げる練習ができる		
			3 ヘッドヴォイス	ヘッドヴォイスを使える		
6	ロングトーン安定	ロングトーン練習	1 ロングトーン	ロングトーンが安定する	3	
			2 安定練習	発声の安定化を学ぶ		
			3 課題曲②学習	ロングトーンの強化		
7	声域	声域チェック	1 声種判別	地声と裏声を使い分ける	3	
			2 ロングトーン	ロングトーンを維持できる		
			3 テスト受験	フレーズテストを受ける		
8	英語発音学	発音練習	1 英語発音	英語の正確な発音ができる	3	
			2 発音練習	発音のニュアンスを学ぶ		
			3 課題曲③学習	課題曲③の発音が上手くなる		
9	ビブラート	ビブラート練習	1 ビブラート	ビブラートを安定して出せる	3	
			2 トレーニング	ビブラートの深さを調整する		
			3 課題曲③学習	ビブラートの速度調整ができる		
10	ダイナミクス学	ダイナミクス学	1 抑揚学習	歌に抑揚をつけられる	3	
			2 ダイナミクス	ダイナミクスを意識する		
			3 課題曲③学習	表情豊かに歌える		
11	裏声	裏声技法	1 裏声出し	裏声の技法がわかる	3	
			2 ボイス比較	ファルセットとミックスの違い		
			3 課題曲③学習	適切な裏声の使用方法を知る		
12	パフォーマンス	パフォーマンス学	1 パフォ習得	適切な課題曲が選べる	3	
			2 課題曲④学習	ステージパフォーマンスを学ぶ		
			3 選曲練習	表現力を高める方法を学ぶ		
13	伴奏	伴奏合わせ練習	1 合唱練習	伴奏に合わせて歌える	3	
			2 ピアノ伴奏	ピアノ伴奏のリズムを取れる		
			3 課題曲④歌唱	歌唱技術をアップする		
14	発表	授業内発表	1 発表準備	授業内容を他者に発表する	3	
			2 パフォーマンス	発表技術を磨く		
			3 授業発表	自己評価を行える		
15	前期のまとめ	後期への準備	1 前期復習	授業の復習ができる	3	
			2 まとめ作成	前期の成果を振り返る		
			3 フィードバック	フィードバックを今後に取り入れることができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】									
メロディーからの1度や3度でのハモリの音感を身につけ、他のパートの音に引っ張られないように歌えるようにする。配布された譜面に関しては、4小節の読譜が可能にする。これらのスキルを磨くことで、ヴォーカリストとしての基礎力を向上させ、基礎レッスンを受けながら音楽全般の知識も習得する。ソロやバンドに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. メロディーから1度、3度でのハモリの音感を身につける。B. 他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる。C. 配布された譜面に関して、4小節の読譜ができる。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標A	メロディーから1度、3度でのハモリの音感を正確に身につける	メロディーから1度、3度でのハモリの音感をやや身につける			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標B	他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる	自分のパートを歌うことができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標C	配布された譜面に関して、4小節の読譜ができる	配布された譜面に関して、1小節の読譜ができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽譜の読み方	新曲視唱	1 譜面配布	楽譜の基礎が理解できる	3	
			2 楽譜読み方	譜面を正確に読める		
			3 楽譜解析	音楽の言語が理解できる		
2	音符・休符	音の要素学び	1 音符学習	音符の種類がわかる	3	
			2 休符学習	休符の違いができる		
			3 音の特性学習	音の長さが理解できる		
3	耳コピー	音感養成	1 パート分け	パート別に音が聞き分けられる	3	
			2 耳コピ	音の高さを記憶できる		
			3 音色確認	音楽の構成がわかる		
4	リズム	リズム強化	1 リズム重視	リズムを正確に取れる	3	
			2 歌唱練習	歌のリズムが整う		
			3 発声方法学習	曲の響きが良くなる		
5	音の確認	音合わせ実践	1 譜面読譜	各パートで音の安定感が増す	3	
			2 パート分け	パート同士の調和が取れる		
			3 音程の確認	歌のハーモニーが感じられる		
6	パート割発表	各自の発表	1 パート毎歌唱	歌の発表がスムーズになる	3	
			2 音色確認	パートごとの特色が出る		
			3 発表技法	アンサンブル感が増す		
7	チーム練習	小グループ練	1 チーム編成	チームでの連携が向上する	3	
			2 チーム練習	歌の練習が効率的になる		
			3 歌唱スキル向上	チーム内のコミュニケーションが増す		
8	意見の統合	演奏調整MTG	1 リズム討議	リズムの統一感が増す	3	
			2 ダイナミクス討議	ダイナミクスのバランスが取れる		
			3 音楽解釈	歌に表情が増す		
9	発表	チームでの発表	1 チーム発表	歌唱の技術が向上する	3	
			2 歌唱評価	チームの協力が感じられる		
			3 表現方法学習	表現力が豊かになる		
10	シンコペーション	細部への注目	1 シンコペ学習	シンコペーションの理解が深まる	3	
			2 タイと休符	休符の使い方が洗練される		
			3 意識的な歌唱	曲のニュアンスが出る		
11	曲アナライズ	洞察力の向上	1 チーム分け	曲の深い部分が理解できる	3	
			2 曲解析	アナライズを基に歌が改善される		
			3 深掘り練習	練習がより具体的になる		
12	パフォーマンス学	表現力の向上	1 パフォーマンス	パフォーマンスの基礎ができる	3	
			2 ステージング	表現の幅が広がる		
			3 表現力向上	ステージングが向上する		
13	全要素確認	要点確認	1 リズム確認	全体のリズムが安定する	3	
			2 ダイナミクス確認	ダイナミクスのコントロールができる		
			3 総合技法	パフォーマンスが一体となる		
14	授業発表	パフォーマンス	1 授業発表	授業内容が総合的にわかる	3	
			2 発表技法	発表時の緊張が和らぐ		
			3 聞き手としての評価	歌の完成度が高まる		
15	まとめ	学期振り返り	1 復習	前期の内容が確認できる	3	
			2 知識確認	スキルの定着を確認できる		
			3 スキル振り返り	成果を振り返れる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】									
声のダイナミクス、声質、ウィスパーヴォイス発音など、1つの声質を考える能力を向上させる。課題曲を授業内で披露できるように、基礎レッスンを通じてヴォーカリストとしての基礎力を育成する。ソロやバンドに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. 個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる。 B. ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、1種類の声質を考えることができる。 C. 課題曲1曲を授業内で披露する事ができる。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる	他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、1種類の声質を考えることができる	ダイナミクスや声質を考えることができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	課題曲1曲を授業内で披露する事ができる	課題曲1曲のワンコーラスを授業内で披露する事ができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はループリック評価に基づき、14回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽器特徴学習	楽器知識	1 楽器特徴学習	楽器特徴を理解する	3	
			2 機材の選定	適切な機材を選べる		
			3 機材の操作	機材の操作ができる		
2	楽曲①構成確認	各パートの把握	1 音の確認	各パートの音を知る	3	
			2 バンド編成	正確にパートを歌える		
			3 アンサンブル歌	アンサンブルが強化される		
3	楽曲①構成学習	構造認識	1 構成の学習	前奏を完璧に理解する	3	
			2 前奏の練習	間奏を正確に把握する		
			3 間奏の練習	アウトロの構造を掴む		
4	ダイナミクス意識	音量調整	1 ダイナミクス学習	ダイナミクスを感じられる	3	
			2 感情の表現	表情豊かに演奏する		
			3 強弱の調整	感情を音に変換できる		
5	音楽技法学習	技法修練	1 リズムの練習	スタッカートの理解	3	
			2 スタッカート学習	タイの正確な実行		
			3 タイの練習	リズムをしっかりキープ		
6	パフォーマンス①	ショーケース	1 パフォーマンス入門	ステージでの立ち振る舞い	3	
			2 ステージ動き	観客との繋がりを持つ		
			3 演出の工夫	演奏中の姿勢が良くなる		
7	楽曲②構成確認	各パートの把握	1 音の再確認	各パートの音を再確認	3	
			2 バランスの取り方	音のバランスがとれる		
			3 アンサンブル練習	アンサンブルの進化		
8	楽曲②構成学習	構造認識	1 構成の再学習	構成要素を再度掴む	3	
			2 アウトロの練習	再度のアウトロ学習		
			3 繋ぎ方の工夫	曲全体の流れをつかむ		
9	ダイナミクス強化	音圧強化	1 ダイナミクス応用	ダイナミクスを自在に扱う	3	
			2 音量のコントロール	音量を適切に調整する		
			3 演奏の調整	各楽器の調和を深める		
10	音楽技法強化	音型練習	1 リズムの応用	16分のリズムを理解	3	
			2 リズムの発展	高度なリズムができる		
			3 16分のリズム	正確なリズムキープ		
11	パフォーマンス②	表現向上	1 本番に向けた練習	実際のリハーサル技法	3	
			2 総合的な確認	リハーサル中の注意点		
			3 リハーサルのポイント	効果的なリハーサル法		
12	16分リズム学	高速リズム	1 授業発表準備	実際の演奏を体験する	3	
			2 本番に向けて	発表技術を磨く		
			3 発表のコツ	グループでの連携を高める		
13	総合リハーサル	全体確認	1 前期内容の確認	学んだことの振り返り	3	
			2 学んだ点の振り返り	前期の内容を整理する		
			3 成果の確認	自己評価ができる		
14	授業内発表	実践発表	1 曲の構造学習	曲の構造学習ができる	3	
			2 エンディング練習	エンディング練習ができる		
			3 楽曲の理解	楽曲が理解できる		
15	まとめ	総評	1 復習	復習の仕方がわかる	3	
			2 知識確認	知識確認ができる		
			3 スキル振り返り	スキル振り返りができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
 自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】									
3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を磨き、楽譜の読み方を身につけながら音感やハーモニー感覚を向上させる。同時に、実践的な音楽的知識を身につける。ヴォーカリストとしての基礎力を強化するために、基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A・3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。 B・3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。 C・3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。									
【授業の注意点】									
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を講師指定のテンポで演奏できる	3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を任意のテンポで演奏できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力が身に付く			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 配布プリント									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽譜基礎	楽譜読譜入門	1 課題曲①解説	課題曲①を理解する	3	
			2 実習	実技演習ができる		
			3 楽譜基礎	楽譜の基礎が学べる		
2	旋律再現	演奏法	1 課題曲①解説	旋律の正確性向上	3	
			2 実習	楽譜を正確に読む		
			3 旋律再現	リズムを再現できる		
3	運指習得	運指技巧	1 課題曲①解説	複数の音を弾ける	3	
			2 実習	適切な運指習得		
			3 多音運指	高度な技術習得		
4	和音練習	和音演奏法	1 課題曲②解説	和音の基礎を掴む	3	
			2 実習	両手演奏に慣れる		
			3 両手演奏	総合技術向上		
5	音楽記号	音楽記号把握	1 課題曲②解説	臨時記号を読む	3	
			2 実習	調号の読解能力向上		
			3 臨時・調号	楽譜の深い理解		
6	調	概念理解	1 課題曲②解説	調の概念が分かる	3	
			2 実習	音楽の理論習得		
			3 調の概念	理論を実技に活かす		
7	中間発表	楽曲発表	1 中間発表	中間発表の経験	3	
			2 任意選曲	自選曲を披露する		
			3 実習	実技の総合力向上		
8	コード理解	演奏法	1 課題曲③解説	コード理論を知る	3	
			2 実習	コード演奏技術向上		
			3 コード知識	基礎からの応用習得		
9	コード演奏	演奏法	1 課題曲③解説	フレーズ分析の基礎	3	
			2 実習	音楽構造の理解深化		
			3 コード演奏	実技と理論の連携		
10	フレーズ分析 1	分析法	1 課題曲③解説	フレーズの制作技術	3	
			2 実習	制作から発表まで		
			3 フレーズ分析1	高度な分析能力習得		
11	作曲初歩	作曲法	1 課題曲④解説	フレーズ制作の深化	3	
			2 実習	独自性の追求		
			3 フレーズ制作1	制作技術の向上		
12	フレーズ分析2	分析法	1 課題曲④解説	実技試験の対策	3	
			2 実習	試験曲の選択と練習		
			3 分析&発表	総合力での対応能力		
13	作曲応用	作曲法	1 課題曲④解説	授業内の実技試験	3	
			2 実習	講師指定課題の習得		
			3 フレーズ制作2	前期の総合復習		
14	試験対策	試験前学習	1 発表	理解を深める分析	3	
			2 実技対策	表現力の向上		
			3 曲選択	クリエイティブ思考		
15	期末試験	総仕上げ	1 実技試験	技術の精度向上	3	
			2 講師指定曲	自己評価の能力		
			3 前期まとめ	パフォーマンス力向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	柿崎・小野・早川			教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン		
【科目の目的】									
基礎的歌唱力を磨くために課題曲に取り組み、同時にその曲を通じてヴォーカリストとして自己を表現できるスキルを構築させる。基礎レッスンを通じてヴォーカリストとしての基礎力を育み、音楽全般に関する基本知識を身につける。個々のニーズに合わせたトレーニングを実施し、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. 課題曲1曲に関して、基礎的歌唱力を体得している。 B. 課題曲1曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている。 C. 学内発表の範囲内で、歌唱法に、再現性が見込める。									
【授業の注意点】									
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	課題曲1曲に関して、基礎的歌唱力を体得している	課題曲1曲を歌いこなせる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	課題曲1曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている	SNSの操作を体得している			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	学内発表の範囲内で、歌唱法に再現性が見込める	楽曲の譜面を書くことができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
適宜プリントを用意する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験40%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	基本指導	制作ツール紹介	1 制作ツール紹介	ツールの操作ができる	3	
			2 制作方法紹介	基本的制作技法が身につく		
			3 オリエンテーション	アイディアを具体化できる		
2	音域	音域の把握	1 音域の考察	自音域の理解を深める	3	
			2 楽曲制作	楽曲制作の基礎を学ぶ		
			3 課題曲設定	課題曲の設定ができる		
3	メロディ制作	リズムやキーの把握	1 メロディー解釈	メロディ作成ができる	3	
			2 リズム解釈	リズムの理解を深める		
			3 キー解釈	キー解釈の技術を習得		
4	曲指導1	歌唱法	1 課題曲指導 1	オリジナル楽曲の指導理解	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の改善ができる		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
5	曲指導2	歌唱法	1 課題曲指導 2	オリジナル楽曲の改善法知識	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の構成を理解する		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
6	曲指導3	歌唱法	1 課題曲指導 3	オリジナル楽曲の進行理解	3	
			2 オリジナル制作	課題曲のアドバイスが理解		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
7	中間歌唱	中間評価	1 中間確認	中間での楽曲評価ができる	3	
			2 歌唱確認	歌唱による確認ができる		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
8	ライブへの意識1	パフォーマンス	1 ライブ意識制作 1	ライブ時の楽曲構成理解	3	
			2 パフォーマンス学	パフォーマンスの意識強化		
			3 楽曲制作技	楽曲の進行感を感じる		
9	ライブへの意識2	パフォーマンス	1 ライブ意識制作 2	配信向け楽曲の理解深化	3	
			2 パフォーマンス学	パフォーマンスの意識強化		
			3 楽曲制作技	楽曲の進行感を感じる		
10	曲指導4	歌唱法	1 課題曲指導 4	オリジナル楽曲の進行深化	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の深い理解を得る		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
11	曲指導5	歌唱法	1 課題曲指導 5	オリジナル楽曲の進行深化	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の深い理解を得る		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
12	曲指導6	歌唱法	1 課題曲指導 6	オリジナル楽曲の進行深化	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の深い理解を得る		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
13	曲指導7	歌唱法	1 課題曲指導 7	オリジナル楽曲の完成度上昇	3	
			2 オリジナル制作	課題曲の深い理解を得る		
			3 楽曲の進行	楽曲の進行感を感じる		
14	成果発表	パフォーマンス発表	1 楽曲発表	楽曲発表の自信を持つ	3	
			2 制作の振り返り	フィードバック受容ができる		
			3 学びの確認	学びの確認と振り返りができる		
15	総括	講評フィードバック	1 授業のまとめ	全体の振り返りができる	3	
			2 学びの振り返り	次のステップを考える		
			3 次のステップ	新しい学びへの意欲向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		作編曲		
【科目の目的】									
特定のジャンルに合わせた作曲と編曲の技術を身につけ、DAWや指定されたデジタルアプリケーションを操作し、2mixデータを提出できるスキルを磨く。ヴォーカリストとしての基礎力を向上させ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する基礎知識を得る。ソロやバンドなどに合わせたトレーニングを実施し、様々なオーディションに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A・1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B・1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C・DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身につけること									
【授業の注意点】									
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける	1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を説明できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につける	1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を説明できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身につける	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
講師オリジナル教材など									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はループリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかには思考・判断・表現を評価する) 平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①入門	楽曲基礎理解	1 課題曲①紹介	課題曲①の概要理解	3	
			2 基本制作法	基本的構造把握		
			3 楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題①基礎	音楽構造習得	1 課題曲①分析	課題曲①の解析技法習得	3	
			2 コード進行	リズムの基礎知識		
			3 リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題①形成	旋律作成	1 課題曲①練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2 メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3 アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題①解析	和声理論	1 課題曲①応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2 楽器選定	コード構築能力習得		
			3 ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題①応用	リズム実践	1 課題曲①発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2 評価方法	楽曲評価基準知識		
			3 フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題①調整	創造力活用	1 課題曲①改善	課題曲②の概要理解	3	
			2 再構築法	応用的構造把握		
			3 エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題①修正	アレンジ法	1 課題曲①完成	和声の拡張知識習得	3	
			2 録音技法	テクスチャー理解強化		
			3 ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題②入門	楽曲改良	1 課題曲②紹介	複雑メロディ作成能力	3	
			2 進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3 サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題②基礎	楽曲分析	1 課題曲②分析	楽曲発表の準備能力	3	
			2 和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3 テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題②形成	アレンジ法	1 課題曲②練習	リズムとメロディ統合	3	
			2 曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3 ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題②解析	音響テクニック	1 課題曲②応用	楽曲全体の流れ理解	3	
			2 音域活用	リスニング技法習得		
			3 モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題②応用	レコーディング	1 課題曲②発表	楽曲の表現力向上策	3	
			2 実践的評価	音色選択の基本知識		
			3 リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題②調整	音楽表現	1 課題曲②改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2 音色調整	アレンジの最終調整		
			3 エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題②修正	作品評価	1 課題曲②完成	マスタリングの基礎	3	
			2 最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3 マスタリング	コードの応用技法		
15	総合復習	実用化指南	1 課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2 ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3 フィイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等